

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「地域のみりよくを伝えよう」 教材名「地域のみりよくを伝えよう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、語句の意味や関係を確認、伝えたい内容に合う語を使う。原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理する。思考・判断・表現では、地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直す。交流や試行の前後を比べ、地域の紹介文と出典メモを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句の意味や関係を確認、伝えたい内容に合う語を使っている。 原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。（〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)ア）	①「書くこと」において、地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直している。（B(1)イ・B(1)ウ・B(2)ア）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、情報の関係と目的に合う語句を中心に学ぶ。地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)アとB(1)イ・B(1)ウ・B(2)アに関係する学習である。成果は、地域の紹介文と出典メモに示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

予想される難しさは、よいという評価だけを並べることである。調べた事実と自分の解釈を対応させて構成する。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○情報の関係と目的に合う語句に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す地域の紹介文と出典メモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～6 （本時は6時）	○地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○このよさの根拠になる事実は何かを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	7	○地域の紹介文と出典メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えるような考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (6/7)

(1) 本時の目標

地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「このよさの根拠になる事実は何か」 【めあて】情報の関係と目的に合う語句について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・具体性のある事実を入れると魅力の理由が伝わる。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。よいという評価だけを並べる姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直す。 3 書いたものを読み返し、「このよさの根拠になる事実は何か」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 〈予想される児童の反応〉 ・具体性のある事実を入れると魅力の理由が伝わる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	調べた事実と自分の解釈を対応させて構成する。知識・技能では、語句の意味や関係を確認し、伝えたい内容に合う語を使っている。原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選ぶようにする。 ◎①地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直している。(B(1)イ・B(1)ウ・B(2)ア) (初稿・見直した稿・修正理由)
まとめ (分)	5 地域の紹介文と出典メモを確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】書いたものを読み手の立場で確かめ、目的に合う言葉や構成へ直すと、伝えたい内容が明確になる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。このよさの根拠になる事実は何かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(地域の紹介文と出典メモと実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、地域のよさを伝えるために根拠を集め、事実と考えを分けた紹介文を書いて直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。よいという評価だけを並べる場合は、調べた事実と自分の解釈を対応させて構成する。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には情報の関係と目的に合う語句を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に地域の紹介文と出典メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

